

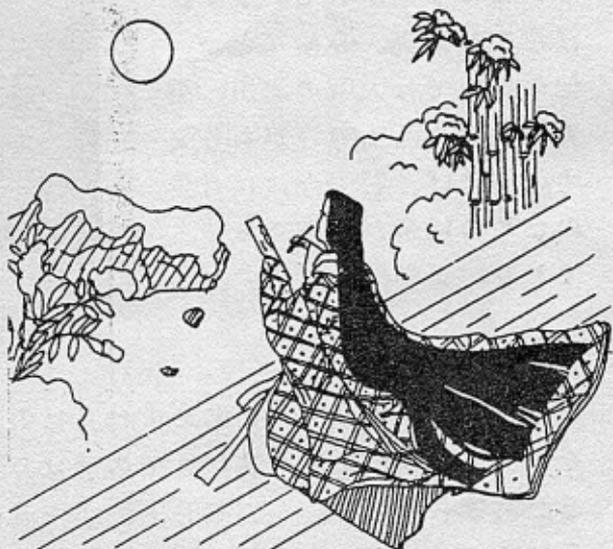
## 月によせて

## 月の美しさ 「雪月花」

昔から、日本人は春の花、秋の月、冬の雪を「雪月花」と呼び、美しいものの代表としてとらえていました。雪月花は今から約1200年余り前の中国の詩人、白楽天の詩に由来します。

「雪月花の時に最も君を憶う」  
雪月花を眺めている時、心が落ちつき、友を想うという詩

です。そして、平安時代以降は和歌などの文芸の題材として、江戸時代には、俳句や浮世絵の中に雪月花が多くとりいれられました。特に、東海道五十三次で有名な安藤広重は作品の中に月をよく描きました。



## お月見

月に関係する行事にお月見があります。これは昔の暦の8月15日にあたる日に月を鑑賞する行事で、中秋の名月と呼ばれています。中国から伝わってきたものですが、日本では平安時代(909年)に醍醐天皇が最初に行ったと伝えられています。江戸時代になると特に盛んになりました。月見の時には収穫されたばかりのサトイモやクリなどを供えました。中秋の名月は現在の暦では年によって日が異なります。これは現在の暦が太陽を基に作られているからです。1992年は9月11日、1993年は9月30日、1994年は9月20日になります。月見には中秋の名月の約1ヶ月後の月を觀賞するものもあります。これは「十三夜」と呼ばれ、満月になる前の少し欠けた月を觀賞するもので、「後の月」とも呼ばれます。この後の月は日本古来からの慣習ではないかと考えられています。

## 月の名所

月はどこでながめても同じ  
はずですが、特にここでなが  
めると美しいという場所があ  
り、絵にも描かれています。  
江戸では佃島、高輪などで、  
他の地方では大阪の淀川、滋  
賀県大津の石山寺等がありま  
す。例えば、石山寺には月見  
のための場所が現在でも残っ  
ており、見学できます。



石山寺の月見亭

## 月と暦

では、なぜこのように昔の人は月に対して興味を抱いたのでしょう？  
その一つの理由に明治時代までの暦は月を中心にしたものだったというこ  
とがあげられます。「三日月」、「十五夜」という言葉があるように細い  
月はその月の3・4日ごろに、満月は15日近くになるように暦が作られ  
ました。月の形をみれば、その日が何日であるかがおおよそわかるわけで、  
生活と月の満ち欠けが密接に結びついていたのです。現在でも盆をはじめ  
15日に行事が多いのは暦が普及しないころ満月が日を知る上でわかりや  
すかったためです。

## 日食と月食

日食は月が太陽をかくす現象で、月食は地球の影が月をかくす現象です。  
この日食と月食を近々見ることができます。月食は最大で約10%しか欠け  
ませんが、平成3年12月21日の午後7時から8時6分まで、日食は平成4  
年1月5日の日の出（午前7時4分）から午前7時46分までで、最大約30  
%欠けます。ぜひご覧下さい。（渡辺 誠）



## 富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成3年12月15日